

インドカレーの専門店から学んだこと

松江市立東出雲中学校 三年 森口凜音

日本で暮らす外国人の人数は、毎年増加しています。現代社会の特徴や課題の一つとして「グローバル化」が挙げられますが、1980年代には80万人足らずだったのが、2020年頃には260万人を超えています。国別にみても、中国、韓国がほとんどだった1980年代と比べて、今は、ベトナム、フィリピン、ブラジル、アメリカ合衆国と世界各地に広がっています。

そのような状況の中で、僕たちも、外国の人と出会ったり、関わったりする機会も多くなりました。しかし、日本人である僕たちがどのような考え方を持っているかという、あまり話し合ったりしたこともなく、国によっては偏見を持ったりしていることもあるのではないかと思います。僕は以前、そう感じた経験がありました。

僕が小学校六年生の時でした。外国人だけで経営しているあるお店で感じたことでした。そのお店は、県外にあるインド国籍の人だけで経営するインドカレーの専門店でした。そのお店のある町は、中国地方の大きな都市で、多くの人でにぎわっている町です。僕がこの店のことを知ったのはインターネットのグルメサイトでした。僕はこの店のことをネットで知ったとき、母国を離れて、遠い日本の地方都市で自分たちだけで起業する「外国人の行動力はすごい！」と思いました。僕はますます、この店に興味を持ち、ぜひ行ってみたいと思うようになりました。

それからしばらくして、僕は家族旅行の折りにそのお店に行ってみました。行ったのは日曜日の昼でした。

日曜日の昼時といえば、他のお店は大勢の人でにぎわっていました。ラーメン屋や大手チェーン店のハンバーガーショップなどは行列ができるほどで、車も渋滞していました。僕の住んでいる町とは違う活気でした。しかし、僕が行ったインドカレー専門店は、ガラーンとしていて、とてもにぎわっているとは言えませんでした。「あまりおいしくないのかな？」とパッと思いました。「どうしてかな？」「何か理由があるのかな？」と思いつつ、僕はドアを開け、店に入り、初めてインドの人が作ったカレーを食べてみました。今でも忘れられないくらいのとてもおいしいカレーでした。店員さんの優しい笑顔、片言の日本語での接客。僕は心まで温かくなり、とても良い店だと確信したのです。なぜ、こんなお店に客が少ないのだろうと改めて思ってその町を後にしました。

翌日、仲の良い友だちにこの話をしてみました。その友だちは、外国人だけで経営しているのが少し不安だという話を聞いたことがあると言っていました。「何が不安なの？」とたずねると「衛生面が…」と言いました。しかし、実際にそのお店に行った僕の印象は全く違うものでした。店はとてもきれいに整えられ、インドの雰囲気を感じる素敵な店だったからです。どうして、行ってもいないのにこんなことを言われるのだろうかと憤りに近い気持ちとなりました。

後日、僕はネットで「外国人飲食店経営」を検索してみました。様々な店への意見が紹介

されたサイトでは「日本人の経営と違って不安がある」「ちょっと入りにくい」「一人では…」
「大丈夫？」など否定的な声が多かったことに驚きました。本当はそんなことはないのにな
あとを思いつつ、一方で、このサイトを見ていた自分にも反省しました。こんなことを調べて
しまった自分が恥ずかしいと思いました。僕は自分の目でも店は確認したし、味もちゃんと
分かっていたのに、こんな無責任な意見を調べてみようとしたことは間違っていました。し
かし、実際に行ったことのない人がこんな意見を「参考」にして外国人の店に負のレッテル
を貼ってしまうのです。僕はとても「怖いな」と思いました。偏見や差別はこうして生まれ
るのだと思います。人の心の弱さだと思いました。

日本は確かに世界でも最も美しい、きれいな国だと思います。衛生的で安全な国です。イ
ンドカレーの専門店は、その日本で営業許可を得ている店です。このインドカレーの店の他
にも、勝手な思い込みや風評によって、苦しんだり悲しんだりしている外国人が多くいると
いうことを私たちはしっかりと知らないといけないのです。

今、日本には多くの外国人が住んでいます。また、外国に住む日本人も多くいます。真の
グローバル化とは、お互いに正しく知り合うことから始まると思います。想像ではなく、き
ちんと話し、きちんと出会う勇気と行動が必要です。僕はインド人のカレー専門店の体験か
らそのことを学びました。少し遠い町ですが、またあのおいしいカレーを友だちと食べに行
きたいと思います。「アリガトウ」と笑顔で応えてくれた店の人と今度はお話もしてみたい
です。小さな行動ではあるけれど誰もが幸せな社会への第一歩だと思います。